

せったん

第163号 2016年5月15日

● 発 兵庫県保険医協会北摂・丹波支部
〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル5階
● 行 TEL078-393-1801 FAX 078-393-1802

北摂・丹波支部



2016年診療報酬改定研究会

マイナス改定に抗議 診療報酬引き上げと窓口負担軽減を

医科・歯科あわせて144人参加



医科の講師を務める廣瀬支部幹事(左)と司会の森下支部長(右)



(左から) 歯科の講師を務める福田・中西・小寺各支部幹事と鈴木理事

また、医科会場では森下支部長から、歯科会場では福田支部幹事から、「かかりつけ医以外の受診時に追加定額負担」「市販品類似薬の保険外し」など政府がねらう新たな患者負担増計画を紹介。協会・保団連が取り組む「ストップ! 患者負担増署名」への協力が呼びかけられ、あわせて123筆が集まった。

協会は3月と4月に県下各地で診療報酬改定研究会を開催。医科・歯科あわせて21会場に3064人が参加した。北摂・丹波支部は3月26日に医科の診療報酬改定研究会を、3月22日に歯科の診療報酬改定研究会を、三田市・キッピーモールで開催した。

医科の研究会は、廣瀬支部幹事が講師、森下順彦支部長が司会を務め、107人が参加した。歯科の研究会は、福田俊明・中西透・小寺修支部幹事、鈴木明彦理事が講師を務め、37人が参加した。福田先生は司会も務めた。

今次改定率は、本体はプラス改定としながらも薬価や材料費の引き下げなどにより▲1・44%となり、2014年度改定を上回るマイナス改定となった。

医科では、湿布薬の処方枚数制限による事実上の「保険外し」や、在宅時医学総合管理料等の算定方法の複雑化や点数の引き下げなどにより医療現場に混乱が広がっている。また、紹介状なしで大病院を受診した際の定額患者自己負担が

導入されるなど、医療機関や患者の実態を無視した医療費の抑制を目的とする不合理な改定となった。

また、医科会場では森下支部長から、歯科会場では福田支部幹事から、「かかりつけ医以外の受診時に追加定額負担」「市販品類似薬の保険外し」など政府がねらう新たな患者負担増計画を紹介。協会・保団連が取り組む「ストップ! 患者負担増署名」への協力が呼びかけられ、あわせて123筆が集まった。

さらなる患者負担増は中止を! 署名にご協力ください



政府が次々と計画する患者負担増案を阻止しようと、協会は新たな「ストップ! 患者負担増」請願署名に取り組んでいます。7月までに3万筆をめざしています。

患者さんにも政府の狙いを知らせ、患者負担増をストップさせましょう。引き続き取り組みますが、お手元の署名をご返送ください。

もう一回り、ご家族、スタッフ、患者さんへのお声かけをお願いします。

署名用紙のご注文は、Tel 078-393-1807、FAX078-393-1820まで

兵庫県保険医協会北摂・丹波支部 医療安全管理対策研修会

診療所でのヒヤリ・ハット対策

～具体的カイゼン方法も含めて～

日時 6月25日(土)18時～19時30分

会場 三田市総合福祉保健センター1階 会議室1・2

講師 小川 麻由美氏(済生会兵庫県病院 感染管理認定看護師)

参加費 1,000円 (受講された方には受講証を発行します)

自院で「ヒヤリ・ハット」事例を積極的に集約し、分析することは、エラーの発生要因を考え、事故防止を検討する上で極めて有用です。例え実際の被害に至らなくても、ミスやエラーがあった事例は、医療安全管理のノウハウとして蓄積し活かしていくべきではないでしょうか。今回の研修会は、診療所での「ヒヤリ・ハット」発生の実態と対応について考えたいと思います。

講師は、済生会兵庫県病院で感染管理認定看護師として活躍されている小川麻由美さんにお話をいただきます。

医療法で「医療安全管理」「院内感染対策」に関しては、**職員・従業者の研修を年2回程度実施**することが求められています。

無床診療所(医科・歯科)の場合は、外部研修でも認められていますので、この機会をぜひご活用下さい。なお協会未入会の医療機関は入会の上ご参加下さい。

お問い合わせは、078-393-1807・1809 石本・三田まで

FAX(078)393-1820

北摂・丹波支部「医療安全管理対策研修会」 参加申込書 (6月25日)

参加者名	職種

地区() 医療機関名()

ご担当者名() ご連絡先()

■事前アンケートにお答えください■

- ・インシデント・アクシデントが発生した時、対策をみんなで話し合っていますか? はい いいえ
- ・インシデント・アクシデントをもとに、日々の業務に対策を反映させていますか? はい いいえ
- ・インシデント・アクシデントレポート用紙を記載していますか? はい いいえ



北摂・丹波支部が参加する「篠山の医療をよくする会」は3月29日、国民健康保険・介護保険に関わる問題で篠山市と懇談した。篠山市から、保健福祉部保健総務課・倉剛史部長ら3人が、会からは4人が出席し

「篠山市の医療をよくする会」対市交渉 市民が安心して 医療・介護を受けられるよう要請



交渉では市民第一の視点で医療・介護の充実を訴えた

国保の運営状況は非常に厳しいと説明。ここ2年間は国保税を据え置いていたが、4億円ほどある基金のうち、1億7000万円ほどを繰り入れても上げざるを得ないとした。保険税滞納者に対する差し押さえについては、事前に調査を行い、悪質と思われる事例以外は行っていないとした。2019年からはじまる第6期3年介護保険事業計画について、保険料の基準月額は今現在の5020円に据え置くとし、要支援サービスの一部を市の地域支援事業へ移行することについては2007年4月から実施予定であり、現行のサービスの削減は「今のところない」としながらも、今後、国などからの財政支援もないまま市

が単独で行っていくには限界があり、民間事業所の協力やボランティアの充実をすすめているとした。また、体操などを推奨することで、介護保険を利用する状態にならないよう努力しているとした。

会からは、「政府が進める社会保障の削減に対し、市民の防波堤となる役割となるのが市だ。市の財政は厳しいかと思うが、市民第一の視点で医療・介護の充実を図ってほしい」「介護保険は今でさえお金は払うが、サービスが受けられないのが現状だ。介護が必要な方が介護保険を利用できるように、市役所窓口での相談の際、市民の話をよく聞いて介護認定の手続きをしてほしい」「指定事業者によるサービスの質を低下させないよう市がもっと責任を持つべきだ」などと、市民が安心して医療・介護を受けられるように要請した。

た。懇談は、事前に県社会保険推進協議会が実施した「2015年度社会保障施策等についての自治体アンケート」への回答をもとに行われた。

市保健福祉部は、国保について、国保加入世帯の所得階層は100万円未満が4777世帯と、国保に加入する6207世帯の3分の2以上を占める現状から

国保の運営状況は非常に厳しいと説明。ここ2年間は国保税を据え置いていたが、4億円ほどある基金のうち、1億7000万円ほどを繰り入れても上げざるを得ないとした。保険税滞納者に対する差し押さえについては、事前に調査を行い、悪質と思われる事例以外は行っていないとした。2019年からはじまる第6期3年介護保険事業計画について、保険料の基準月額は今現在の5020円に据え置くとし、要支援サービスの一部を市の地域支援事業へ移行することについては2007年4月から実施予定であり、現行のサービスの削減は「今のところない」としながらも、今後、国などからの財政支援もないまま市